

学位論文審査の要旨

	飯島(伊藤) 泉美【論文博士】 【比較文化学専攻 昭和63年度生】 (平成6年3月31日 単位修得退学)	要 旨
学位申請者		<p>横浜の中華街は、観光・美食のスポットとして広く知られているが、その形成・発展過程を長期的・多面的に明らかにしようとする研究は、従来ほとんど行われてこなかった。本論文は、横浜開港から関東大震災後の復興期に至る約60年間の横浜華僑社会について、(1) 形成・発展の歴史的経緯、(2) 組織団体、(3) 経済活動、の3側面から実証的に考察した大部の研究である。</p> <p>第一部では、横浜開港(1859年)、日清修好条規締結(1871年)、日清戦争勃発(1894年)、改正条約実施(1899年)、関東大震災(1923年)を境として、この60年間に5つの時期に区分し、それぞれの特徴を明らかにしつつ、横浜華僑社会の形成・発展過程を論じた。第二部では、中華会館、関帝廟、墓地、商業会議所、学校、同郷団体や政治団体など、横浜華僑社会で相互扶助や対外交渉を担った諸団体につき、克明に検討した。第三部では、<i>The Japan Directory</i>などの年鑑類を用いて、横浜華僑の職業構成や経済活動の特徴を分析するとともに、事例研究として華僑によるピアノ製造の一企業を取り上げ、その経営のあり方を詳細に明らかにした。</p> <p>本論文の特色は第一に、統計を用いた全体像の把握と具体事例の分析との双方から堅実な実証研究を行い、横浜華僑社会の形成・発展過程の実態を長期的かつ詳細に解明した点にある。今後の横浜華僑社会史研究においても必ず参照すべき基準となる重要な成果と評価できる。第二に、日文・中文・英文の文献資料のみならず、画像資料、実物資料、口述資料など、多様な資料を用いて、横浜華僑社会の歴史的営みを生き生きと描写している点である。歴史学の専門家のみならず、一般読者の関心にも広く応え得る研究といえよう。</p> <p>審査では、本論文をスケールの大きな力作と評価した上で、史料に関する説明、統計上のカテゴリーの検討や統計の扱い方、年鑑類に現れない都市下層の華僑の存在、他の開港場と比較した際の横浜華僑社会の特質、などの点につき、補足的記述や検討が求められた。著者は審査委員のコメントに対応して丁寧な補充・改訂を行い、問題点は適切に解決されたと認められた。</p> <p>公開発表での質疑応答も的確であり、著者の十分な知識と明確な観点を示すものであった。以上より、本審査委員会は、本論文を博士論文として十分な水準に達していると判断し、博士(人文科学)、Ph. D. in Historyの学位に相当するものと認めた。</p>
論文題目	横浜華僑社会の形成と発展-1859年から1920年代中頃まで	
審査委員	(主査) 教授 岸本 美緒	
	教授 小風 秀雅	
	教授 三浦 徹	
	教授 宮尾 正樹	
	教授 神田 由築	
インターネット 公表	<p>○ 学位論文の全文公表の可否 (可 ・ <input checked="" type="checkbox"/> 否)</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む</p> <p style="margin-left: 20px;">イ. 著作権や個人情報に係る制約がある</p> <p style="margin-left: 20px;"><input checked="" type="checkbox"/> ウ. 出版刊行されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている</p> <p style="margin-left: 20px;">オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p>	